

区の予防接種についてお伺いします。

おととし6月から風しんが流行し始め、去年は都内で3444名もの風しん患者が報告されました。風しんは、妊娠初期の女性が感染すると胎児に難聴や白内障、心疾患などの先天性風しん症候群が現われることがあり、注意が必要な感染症となっております。

そのため練馬区では昨年3月から、妊娠を予定又は希望している女性と妊婦の夫に対し、風しん予防ワクチンの無料接種を始められ、すでに男女合わせて5600回を超える接種が実施されました。他区に先駆け、いち早く実施されましたことを評価いたします。

しかしながらこの無料接種が、来月末にはすべて終了となってしまおうと伺っております。国立感染症研究所が先月発表した、去年の風しんにかかった妊婦から生まれた先天性風しん症候群の子の出生数は32人であり、過去最多であった2004年の約3倍にのぼり、今年に入ってから更に3人が確認されました。今後もこのような事態を防ぐため、区は風しん予防ワクチンの無料接種を引続き延長するよう、都に働きかけを行うよう要望いたしますがいかがでしょうか。また、無料接種の促進を図るため、風しんの危険性周知

と接種勧奨を更に行うべきと考えますが、区のご所見をお聞かせください。

二点目に、インフルエンザについてお伺いします。

今年に入りインフルエンザ患者数が激増し、都は1月下旬に、インフルエンザの流行が警報レベルになったと発表しました。特に中学三年生は受験のため、ほとんどの生徒がインフルエンザ予防接種を事前に行ないます。区において、まずは、受験生である中学三年生への接種助成を行なうてはいかがでしょうか。ご所見をお聞かせください。

三点目に、ロタウイルスワクチンについてお伺いします。ロタウイルス胃腸炎は1週間近く、日に数十回に及ぶ白色の下痢と嘔吐が続き、脱水になる危険が高く、子どもがひどく苦しむ病気です。現在日本でも年間80万人の子どもが小児科を受診し、うち8万人が脱水やけいれんで入院しています。

しかし、ロタウイルスワクチンを接種すれば脱水で入院する重症ロタウイルス胃腸炎を92%減らすことが出来ます。問題なのは高額な接種費用であり、2回接種するのに約3万円近くの費用がかかります。このため、渋谷区では、昨年4月より費用の半額助成を行ないロタワクチン接種が進んでおります。

23区の中で子どもの多い練馬区でも、補助を実施し接種を勧めるべきと考えますが、ご所見をお聞かせください。

三点目に、乳児のワクチンは接種できる月齢や時期が決まっており、種類も回数も多く、接種忘れによりVPD（ワクチンで防げる病気）に感染する危険性が高くなっています。

これを防ぐため、足立区では昨年10月より、23区初となる子どもの予防接種情報提供サービス「これで安心♪予防接種ナビ」をスマートフォン、携帯電話などで開始をしました。

練馬区でも、接種忘れ防止の取り組みとして実施されてはいかがでしょうか、ご所見をお伺いします。

四点目に、高齢者肺炎球菌ワクチンについてお伺いします。

我が会派のかねてからの要望により、昨年9月より高齢者肺炎球菌ワクチンの一部助成が開始されましたことを評価いたします。

しかし昨年の対象者における接種実施率は13.7%に留まり、いまだ接種されていない方が多いと見受けられます。高齢者の肺炎の危険性の周知を図るとともに、更なる予防接種の勧奨を行うべきと考えますがいかがでしょうか。

また今後、高齢者肺炎球菌ワクチンが法定化され

ると国の3割の補助となります。高齢者の負担額が現在の4000円補助より大きくなることのないよう、引続き区が助成を行っていただくよう要望いたしますが、ご所見をお聞かせください。

区側答弁

次に、予防接種についてであります。

はじめに、風しん予防ワクチンについてであります。先天性風しん症候群の防止策としてワクチン接種は有効であると認識しており、ワクチンの費用助成の継続について、今後も都に働きかけてまいります。あわせて、ホームページなどを活用し、先天性風しん症候群の危険性の周知やワクチンの接種勧奨に努めてまいります。

次に、中学三年生へのインフルエンザワクチン接種費用の助成についてであります。

受験を控えた中学三年生がインフルエンザに、罹患しないようにすることは、大切なことではありますが、インフルエンザの予防には、日頃の健康管理や手洗い、咳エチケットなどが最も有効であると考えておりますので、区ではこれらの周知徹底を図ってまいります。中学三年生の助成につ

きましては、他自治体の動向を注視し、今後検討してまいります。

次に、ロタウィルスワクチン接種費用の助成についてであります。

ロタウィルスワクチンは、罹患による乳児の重症化を防ぐために有効であり、厚生労働省において、定期接種化の検討がなされております。従いまして、国の動向を踏まえ適切に対応してまいります。

次に、ワクチンの接種忘れ防止対策についてであります。乳幼児期には、多種類のワクチンを接種しなければならないことから、現在、区では、乳児家庭全戸訪問事業や、乳児健診において、個別に接種時期や接種漏れを確認しているところがあります。今後も、保護者の方々にわかりやすいワクチン接種についての案内に努めるとともに、予防接種ナビをはじめとする、先行自治体の取り組みについても研究してまいります。

次に、高齢者肺炎球菌ワクチンについてであります。

高齢者肺炎球菌ワクチンは、肺炎で亡くなる方の95%が65歳以上の高齢者であることから、高齢者にとって有効なワクチンであると認識しております。今後もワクチン接種の必要性について、区報およびホームページなどを活用して周知、勧

奨を強めてまいります。

また、高齢者肺炎球菌ワクチンについては、平成26年10月に定期化される見込みとなっております。区といたしましては、定期化に伴い、受診者の負担増や、利便性を損ねるなど、サービス低下を招かないよう、取り組んでまいります。